

[S-21] 誰ひとり取り残さない防災：3年間のRISTEXプロジェクトの総括

Presentation PDFs are available from the link below:



日本語資料は上記のリンクより閲覧できます

[S-21] Inclusive BOSAI : Summary and evaluation of the RISTEX project





World BOSAI Forum
IDRC 2023 in SENDAI

**JST/RISTEX Solution-Driven Co-creative R&D Program for SDGs (SOLVE for SDGs):
Solution Creation Phase (November, 2019~March, 2023月)**

Research, Development and Nation-Wide Utilization of Inclusive Disaster Risk Reduction (i-BOSAI) with Professional Social Workers

March 11, 2023

Inclusive DRR Research Center, Doshisha University

Shigeo TATSUKI

One Root Cause : Siloization of Social Services and DRR



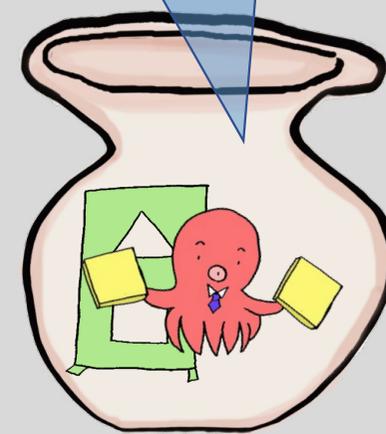
**Comprehensive
community care**



**Neighborhood-based
Countermeasures for
people with functional
needs in times of
disaster**



Social Services

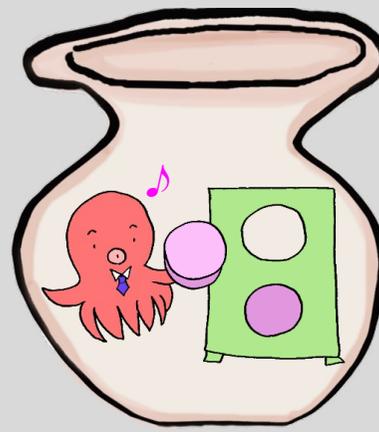


DRR

Linking BOSAI (DRR) and Social Services: i-BOSAI Project



Social Services



DRR

立木茂雄

別府市展開グループ
村野淳子*
(別府市)

他地域への展開グループ
西野佳名子
(兵庫県社会福祉士会)

災害時ケアプラン作成に関する専門職の学びの場グループ

当事者による
平時及び災害時のアウトリーチグループ

八幡隆司
(ゆめ風基金)

田村太郎
(ダイバーシティ研究所)

事業定着化ユニット

コンピテンス分析
カリキュラム開発・評価・
プラットフォーム化
検討グループ

事業定着・制度化
検討グループ

R & D of i-BOSAI Disaster Care Planning Processes

別府市
協力組織

兵庫県社会福祉士会
滋賀県
高島市
大津市
協力組織

日本福祉支援専門員協会
兵庫県社会福祉士会
協力組織

日本障害フォーラム加盟諸団体
協力組織

Utilization and Institutionalization of i-BOSAI Disaster Care Planning

ツール開発ユニット

あなたのまちの
直下型地震マルチ
ハザード化

安心防災帳アプリ化

状況・課題・対策データ
ベースに基づくAI
を活用した提案システム

R & D of i-BOSAI Tools for Disaster Care Planning

鈴本吾
(防災科学技術研究所)
三谷泰浩
(九州大学)
協力組織

株式会社おかのて
協力組織

佐藤翔輔 (東北大学)
協力組織

ESRIジャパン
協力組織

碓川潤
(国立障害者リハビリテーションセンター研究所)
日本総合システム株式会社
(アプリ運用・機能追加)
技術協力

日本総合システム株式会社
(データベース構築・運用)
協力組織

協力組織

内閣府防災→国内展開
JICA人間開発部社会保障チーム→エクアドル・南米地域
アジア太平洋障害者センター (APCD)→タイ・東南アジア地域

結成

②行政職員向け
IM研修プラットフォーム (仮)

同志社大学i-BOSAI研究センター
による研修R&D支援

インクルーシブ
防災推進協議会
(仮)

全国社会福祉協議
都道府県社協災害福祉支援センター

311変える会

Project Outcomes

立木茂雄

Established a learning space & curriculum for defining and clarifying the competencies of the technologies required for platforming (boundary linkage) of multidimensional organizations.

Based on the development of social technology for creating disaster care plans, the Disaster Countermeasures Basic ACT was partially amended in May 2021, making it mandatory for municipalities nationwide to make efforts to create individual evacuation plans for "those who truly need assistance."

事業定着化ユニット

コンピテンス分析
カリキュラム開発・評価・
プラットフォーム化
検討グループ

事業定着・制度化
検討グループ

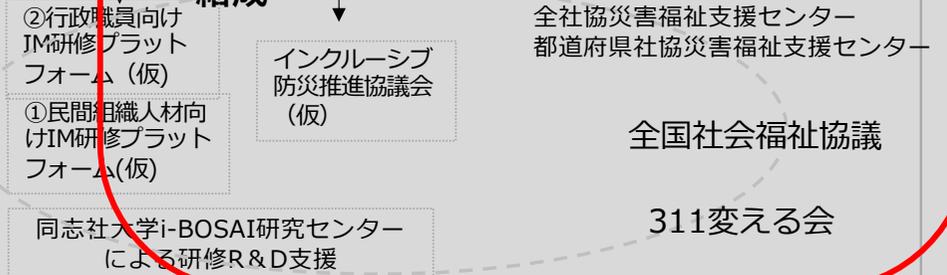
Utilization and Institutionalization of i-BOSAI Disaster Care Planning



協力組織

内閣府防災→国内展開
JICA人間開発部社会保障チーム→エクアドル・南米地域
アジア太平洋障害者センター (APCD)→タイ・東南アジア地域

結成



鈴木進吾 (防災科学技術研究所)
三谷 泰浩 (九州大学)

佐藤翔輔 (東北大学)
木村直紀 (株式会社おかのて)

プラットフォーム開発
佐藤翔輔 (東北大学)

協力組織

ESRIジャパン

技術協力

硯川潤 (国立障害者リハビリテーションセンター研究所)
日本総合システム株式会社 (アプリ運用・機能追加)

協力組織

日本総合システム株式会社 (データベース構築・運用)

2021 Amendment of Disaster Countermeasure Basic Act: Individual Evacuation Plans Made Mandatory to Make Efforts

Overview of the Amendment of Disaster Countermeasure Basic Act

趣旨

頻発する自然災害に対応して、災害時における円滑かつ迅速な避難の確保及び災害対策の実施体制の強化を図るため、以下の措置を講ずることとする。

改正内容

1. 災害対策基本法の一部改正

2021年4月28日参院全会一致で可決・成立
2021年5月20日施行

①災害時における円滑かつ迅速な避難の確保

1) 避難勧告・避難指示の一本化等

<課題>

本来避難すべき避難勧告のタイミングで避難せず、逃げ遅れにより被災する者が多数発生。避難勧告と指示の違いも十分に理解されていない。

住民アンケート
・避難勧告で避難すると回答した者：26.4%
・避難指示で避難すると回答した者：40.0%

<対応>

避難勧告・指示を一本化し、従来の勧告の段階から避難指示を行うこととし、避難情報のあり方を包括的に見直し。



避難情報の報道イメージ（内閣府で撮影）

2) 個別避難計画（※）の作成

※ 避難行動要支援者（高齢者、障害者等）ごとに、避難支援を行う者や避難先等の情報を記載した計画。

<課題>

避難行動要支援者名簿（平成25年に作成義務化）は、約99%の市町村において作成されるなど、普及が進んだものの、いまだ災害により、多くの高齢者が被害を受けており、避難の実効性の確保に課題。

近年の災害における犠牲者のうち高齢者（65歳以上）が占める割合
令和元年東日本台風：約65% 令和2年7月豪雨：約79%

<対応>

避難行動要支援者の円滑かつ迅速な避難を図る観点から、個別避難計画について、市町村に作成を努力義務化。

任意の取組として計画の作成が完了している市町村 約10%
任意の取組として一部の計画の作成が完了している市町村 約57%

※併せて、マイナンバー法を改正し、名簿・計画の作成等に当たりマイナンバーに紐づく情報を活用



避難行動要支援者が災害時に避難する際のイメージ

2) Prepare an individual evacuation plan (*)

* A plan for each person requiring special evacuation assistance (elderly, disabled, etc.) that includes information on who will provide the assistance, the evacuation site, etc.

<Challenges>

Despite the fact that lists of people requiring special evacuation assistance (which became mandatory in 2013) have been widely implemented, with roughly 99% of municipalities preparing such lists, many elderly people are still negatively affected by disasters, and challenges remain in ensuring effective evacuations.

Proportion of elderly (65 and older) among recent disaster victims
2019 East Japan typhoon: approx. 65%; July 2020 torrential rain: approx. 79%

<Response>

It will be mandatory for municipalities to develop individual evacuation plans in order to ensure the smooth and timely evacuation of those who require special evacuation assistance.

Municipalities that have voluntarily completed preparing a plan: Approx. 10%

Municipalities that have voluntarily begun preparing a plan: Approx. 57%

* The My Number Law will be revised simultaneously to allow My Number related data to be used in the preparation of lists and plans.

Involvement of Professional Social Workers for Making Individualized Evacuation Plans with Financial Measures



Linking everyday care plans to disaster Care Plans

Compensations will be funded by the National tax Revenue Allocated to Local Governments

立木茂雄

災害時ケアプラン・アウトリーチ技術開発ユニット

別府市展開グループ
村野淳子* (別府市)

他地域への展開グループ
西野佳名子 (兵庫県社会福祉士会)

災害時ケアプラン作成に関する専門職の学びの場グループ

当事者による平時及び災害時のアウトリーチグループ

八幡隆司 (ゆめ風基金)

田村太郎 (ダイバーシティ研究所)

事業定着化ユニット

コンピテンス分析
カリキュラム開発・評価・プラットフォーム化
検討グループ

事業定着・制度化
検討グループ

R & D of i-BOSAI
Disaster Care Planning
Processes

IM研修のしくみ化

明城徹也* (JVOAD)
吉川肇子 (慶応義塾大)
村野淳子* (別府市)
田村太郎 (ダイバーシティ研究所)

福祉専門職研修のしくみ化

西野佳名子 (兵庫県社会福祉士会)

制度化の検討 (災害対策基本法・災害救助法の改正)

村野淳子* (別府市)
田村圭子 (新潟大)
菅野拓 (大阪公立大)

プッシュ型安否確認システムとの連動のしくみ化

菅野拓 (大阪公立大)
松川杏寧 (防災科学技術研究所)

協力組織

別府市

協力組織

兵庫県社会福祉士会
滋賀県
高島市
大津市

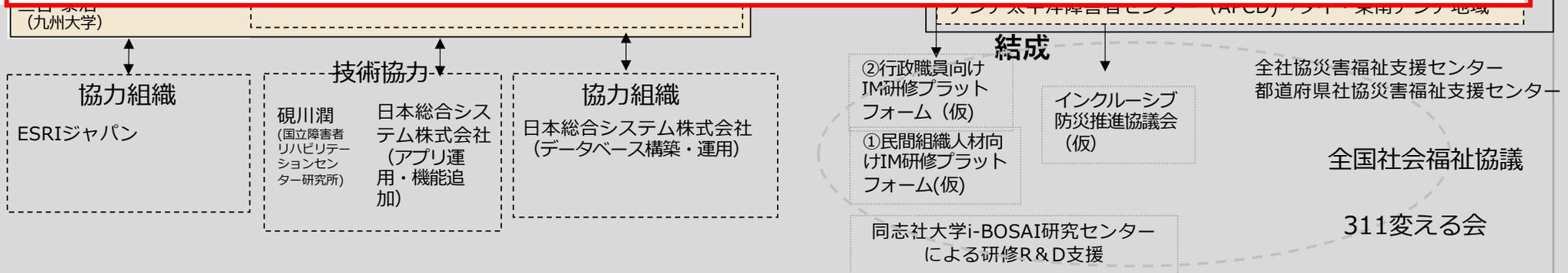
協力組織

日本総合支援専門員協会
兵庫県社会福祉士会

協力組織

日本障害フォーラム加盟諸団体

Establishment of Beppu Model Standard Operation Procedures (SOP)
On top of the Beppu Model SOP, two additional Procedures were added and the Beppu + 2 SOP became the national standard.



2021 Amendment of Disaster Countermeasure Basic Act: Individual Evacuation Plans Made Mandatory to Make Efforts

災害対策基本法等の一部を改正する法律の概要

内閣府(防災担当)

趣旨

頻発する自然災害に対応して、災害時における円滑かつ迅速な避難の確保及び災害対策の実施体制の強化を図るため、以下の措置を講ずることとする。

改正内容

1. 災害対策基本法の一部改正

2021年4月28日参院全会一致で可決・成立
2021年5月20日施行

①災害時における円滑かつ迅速な避難の確保

1) 避難勧告・避難指示の一本化等

<課題>

本来避難すべき避難勧告のタイミングで避難せず、逃げ遅れにより被災する者が多数発生。避難勧告と指示の違いも十分に理解されていない。

住民アンケート
・避難勧告で避難すると回答した者：26.4%
・避難指示で避難すると回答した者：40.0%

<対応>

避難勧告・指示を一本化し、従来の勧告の段階から避難指示を行うこととし、避難情報のあり方を包括的に見直し。



避難情報の報道イメージ (内閣府で撮影)

2) 個別避難計画(※)の作成

※ 避難行動要支援者(高齢者、障害者等)ごとに、避難支援を行う者や避難先等の情報を記載した計画。

<課題>

避難行動要支援者名簿(平成25年に作成義務化)は、約99%の市町村において作成されるなど、普及が進んだものの、いまだ災害により、多くの高齢者が被害を受けており、避難の実効性の確保に課題。

近年の災害における犠牲者のうち高齢者(65歳以上)が占める割合
令和元年東日本台風：約65% 令和2年7月豪雨：約79%

<対応>

避難行動要支援者の円滑かつ迅速な避難を図る観点から、個別避難計画について、市町村に作成を努力義務化。

任意の取組として計画の作成が完了している市町村 約10%
任意の取組として一部の計画の作成が完了している市町村 約57%

※併せて、マイナンバー法を改正し、名簿・計画の作成等に当たりマイナンバーに紐づく情報を活用



避難行動要支援者が災害時に避難する際のイメージ

個別避難計画作成のより詳しい段取りイメージ(例)

(作成の優先度が高いと判断⇒市町村が支援し個別避難計画を作成する場合)
(避難行動要支援者名簿の外部提供に同意している又は条例に特別の定めがある場合)

作成の優先度が高いと判断⇒市町村が支援し個別避難計画を作成

【Step1】 庁内外における推進体制の整備、個別避難計画の作成・活用方針の検討

推進体制については、以下のような者の参加が考えられる
(庁内:防災・消防等、福祉・保健・医療等 庁外:社協、福祉事業者、医療関係者等)

【Step2】 計画作成の優先度に基づき対象地区・対象者を決定

・計画作成の優先度を検討する

- ① 地域におけるハザードの状況(洪水・津波・土砂災害等の危険度の想定)
 - ・河川：浸水想定区域など(「浸水深度が0.5m以上」や「建物崩壊が予測される」地域など自治体の状況・実績に照らし設定)
 - ・海岸・河川：津波災害特別警戒区域など
 - ・傾斜地：土砂災害特別警戒区域など
- ② 対象者の心身状況、日常生活の状況、避難の必要程度
- ③ 独居等の居宅形態、社会的孤立の状況

【Step3】 福祉や医療関係者等に個別避難計画の意義(目的、制度概要、作成の必要性等)や事例を説明

【Step4】 避難行動要支援者等(高齢者、障害者等)に個別避難計画の意義や事例を説明

・関係者への説明は「避難行動要支援者等(高齢者、障害者等)にも活用される」ことを説明する
・個別避難計画は「避難支援等関係者に平時から/災害時にも提供できる」ことを説明する

【Step5】 市町村における本人の基礎情報の収集、関係者との事前調整等

- ・避難行動要支援者等(高齢者、障害者等)の基礎情報の収集
- ・避難支援等関係者(福祉、医療等)との事前調整
- ・避難先候補施設の管理(等)に避難の受け入れが可能かどうかを確認する

【Step6】 市町村、本人・家族、福祉や医療関係者等による個別避難計画の作成

- ・市町村や都府県が避難行動要支援者等(高齢者、障害者等)に個別避難計画の作成を促す
- ・避難行動要支援者本人の意向を確認する(「避難先」や「避難支援等実施者」等)について
- ・避難行動要支援者に個別避難計画情報の平常時の外部提供について同意を確認する※1
- ・避難行動要支援者に個別避難計画(素案)の訂正、追記等を依頼する(※1 条例に特別の定めがない場合)
- ・福祉や医療関係者等※2が当事者と避難についての対話、意見交換する(※2 自主防災組織や福祉専門員など関係者の参加が望ましい)
- ・関係者が一堂に会する地域調整会議を開催することが望ましい
- ・本人の心身の状況等によっては、本人で情報共有、調整を行うことも考えられる
- ・本人の意向を踏まえ、地域の関係者や施設管理者等と調整や検討を行う
- ・必要事項を記入した個別避難計画を本人に確認してもらう
- ・個別避難計画の作成完了

【Step7】 作成したら終わりではなく実効性を確保する取組を実施

- ・避難支援等関係者に個別避難計画情報(避難支援等実施者・避難先等)を提供する
- ・避難支援等関係者への計画の提供、更新、本人の状況等に応じた訓練の実施等を継続的に実施
- ・自主防災組織や福祉専門員など関係者と連携した取組が期待される

上記のステップは先行自治体を参考に作成。今後のモデル事業を基に改訂の可能性あり

7-Step Standard Operation Procedures

7-Step Standard Operation Procedures (The New Guideline, p.19)

【Step1】 Establish a promotion platform within and outside the Agency, and study of policies for preparation and utilization of individual evacuation plans

【Step2】 Prioritize those who require the immediate disaster care planning

【Step3】 Explaining importance of professional human service professionals' Involvements in making individualized evacuation plans for high-risk people

【Step4】 Explaining importance of the involvements of local neighborhood associations in implementing individualized evacuation plans for older and disabled people.

【Step5】 市 Local municipality-initiated collection of personal information of people with functional needs in times of disaster and pre-meeting coordination with stakeholders

【Step6】 Make individualized evacuation plans during the neighborhood coordination meetings with DRR/social service representatives, the person him/herself, family members, social workers, neighborhood association executive members.

【Step7】 Conduct community-wide inclusive disaster drills

7-Step Standard Operation Procedures (The New Guideline, p.19)

【Step1】 Establish a promotion platform within and outside the Agency, and study of policies for preparation and utilization of individual evacuation plans

【Step2】 Prioritize those who require the immediate disaster care planning

【Step3】 Explaining importance of human service **professionals' Involvements** in making individualized evacuation plans for high-risk people

【Step4】 Explaining importance of the involvements of **local neighborhood associations** in implementing individualized evacuation plans for older and disabled people.

【Step5】 Local municipality-initiated collection of **personal information** of people with functional needs in times of disaster and pre-meeting coordination with stakeholders

【Step6】 Make individualized evacuation plans during the **neighborhood coordination meetings** with DRR/social service representatives, the person him/herself, family members, **social workers**, neighborhood association executive members.

【Step7】 Conduct **community-wide inclusive disaster drills**



7-Step Standard Operation Procedures (The New Guideline, p.19)

[Step1] Establish a promotion platform within and outside the Agency, and study of policies for preparation and utilization of individual evacuation plans

Involve DRR, Social Services, Public Health Departments as well as LTC care service providers, social welfare council, and local resident associations.

[Step2] Prioritize those who require the immediate disaster care planning

[Step3] Explaining importance of professional human service professionals' Involvements in making individualized evacuation plans for high-risk people

[Step4] Explaining importance of the involvements of local neighborhood associations in implementing individualized evacuation plans for older and disabled people.

[Step5] Local municipality-initiated collection of personal information of people with functional needs in times of disaster and pre-meeting coordination with stakeholders

[Step6] Make individualized evacuation plans during the neighborhood coordination meetings with DRR/social service representatives, the person him/herself, family members, social workers, neighborhood association executive members.

[Step7] Conduct community-wide inclusive disaster drills

Boundary-Crossing, Linking, Collaboration & Active Engagement



Ms. Junko MURANO
Dept. of DRR & Crisis Management
Beppu City

Inclusion Manager



Boundary-Crossing



Linking (Boundary-Spanning)



Personal Traits: Mission- & Evidence-based, "What is our business?" Political, Institutional & Personal Social Capital

Stakeholder Involvement • Self-Determination, Community Awareness of Disaster risk

Collaboration & Active Engagement

7-Step Standard Operation Procedures (The New Guideline, p.19)

【Step1】 Establish a promotion platform within and outside the Agency, and study of policies for preparation and utilization of individual evacuation plans

【Step2】 Prioritize those who require the immediate disaster care planning

① Hazards, ② Body Functions and Structures ③ Social Isolation

【Step3】 Explaining importance of professional human service professionals' Involvements in making individualized evacuation plans for high-risk people

【Step4】 Explaining importance of the involvements of local neighborhood associations in implementing individualized evacuation plans for older and disabled people.

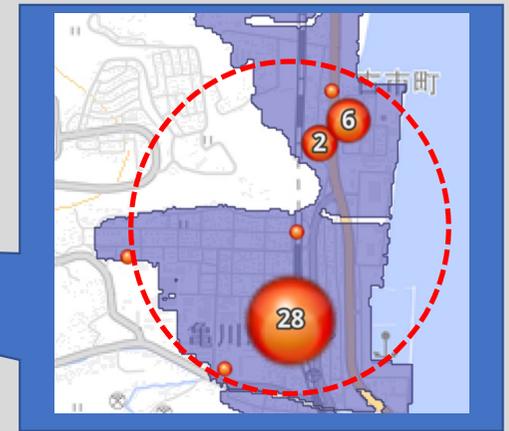
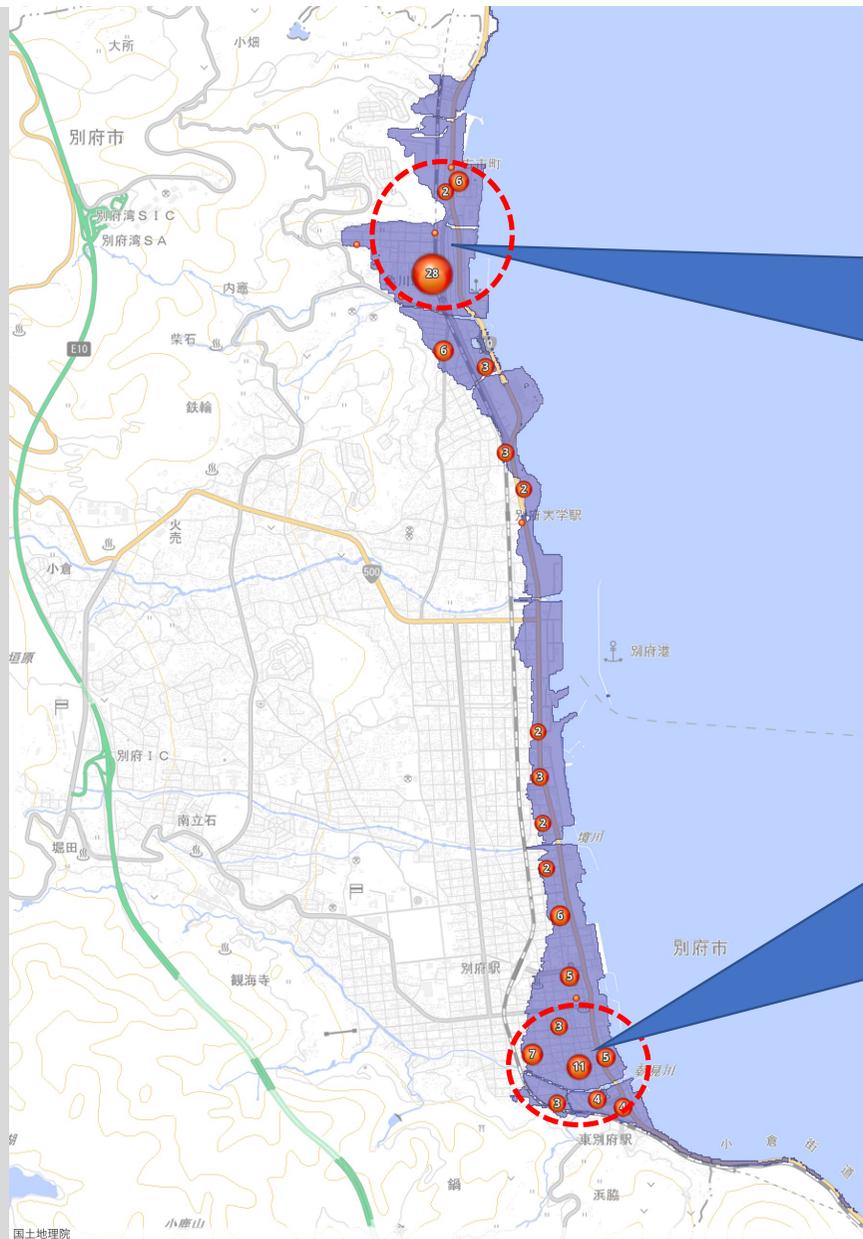
【Step5】 Local municipality-initiated collection of personal information of people with functional needs in times of disaster and pre-meeting coordination with stakeholders

【Step6】 Make individualized evacuation plans during the neighborhood coordination meetings with DRR/social service representatives, the person him/herself, family members, social workers, neighborhood association executive members.

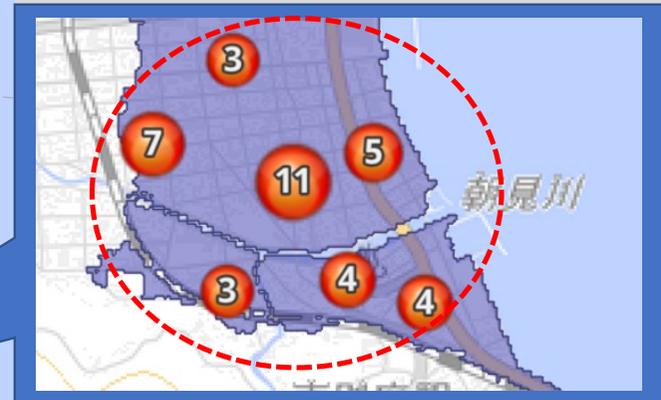
【Step7】 Conduct community-wide inclusive disaster drills

Truly in Need of Assistance (TNA) in Beppu City

113 (7.6%) out of 1492 individuals who receive LTC and other social services



36 individuals in the North Shore district
(One third of TNA)



37 individuals in the South Shore district
(One third of TNA)

Predicting Those who are truly in need of assistance in Beppu

【Total Population 113,476*】

65 years old+ → 38,844名**

LTC service users

(+social service user for the disabled who reside in the tsunami hazard area)

→ 1,288名
(+204名)

Professional Social Worker Assessment on Person-in-environment vulnerability

→ 631名

Residing in tsunami, flood and land slide hazard zones

→ 196名

ケアマネジャー



地域住民



13~15%

Truly in Need of Assistance

立木茂雄

Tool Development Unit

- e-learning Curriculum & Courseware Development
- Multi-Hazard & Impacts Maps
- Web App of ICF-based Bosai Security Notebook for the Assessment of Functional Needs in times of Evacuation and Sheltering
- The Application Programming Interface (API) Linkage for the LGWAN-based Disaster Victim Information Communication System (D-VICS)

安否確認の連携

大) 技術



Curriculum, Textbooks & e-learning Courseware Developments

i-BOSAI Textbook Publications

- Booklet No.1 to No.4 in Japanese
- Booklet No.1 in English for ASEAN Countries
- Booklet No.1 in Spanish for Latin American Countries

Three Types of Training Curriculum & Courseware



Professional Social Workers

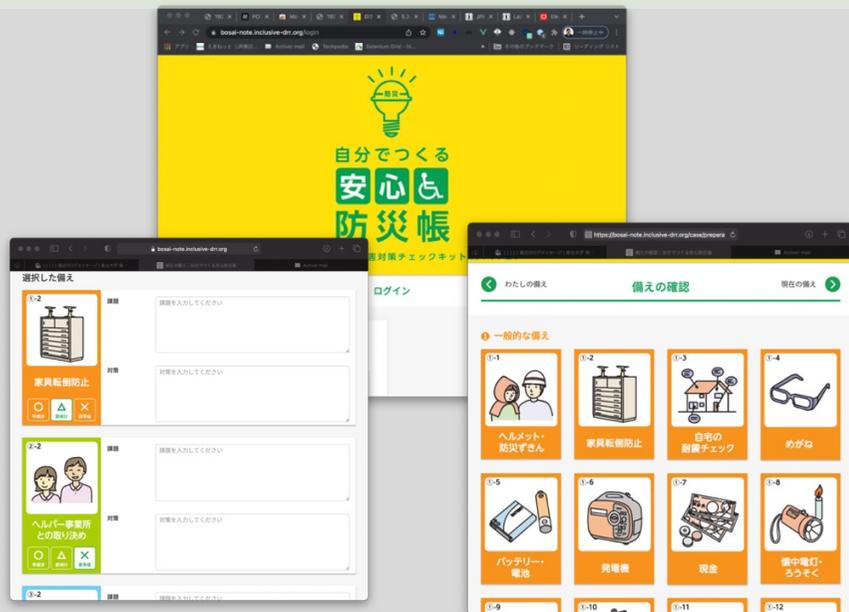


Inclusion Managers



Local Neighborhood Leaders

Tools for the Assessment and Empowerment of People with Functional Needs in Times of Disasters



Bosai Security Notebook Web App

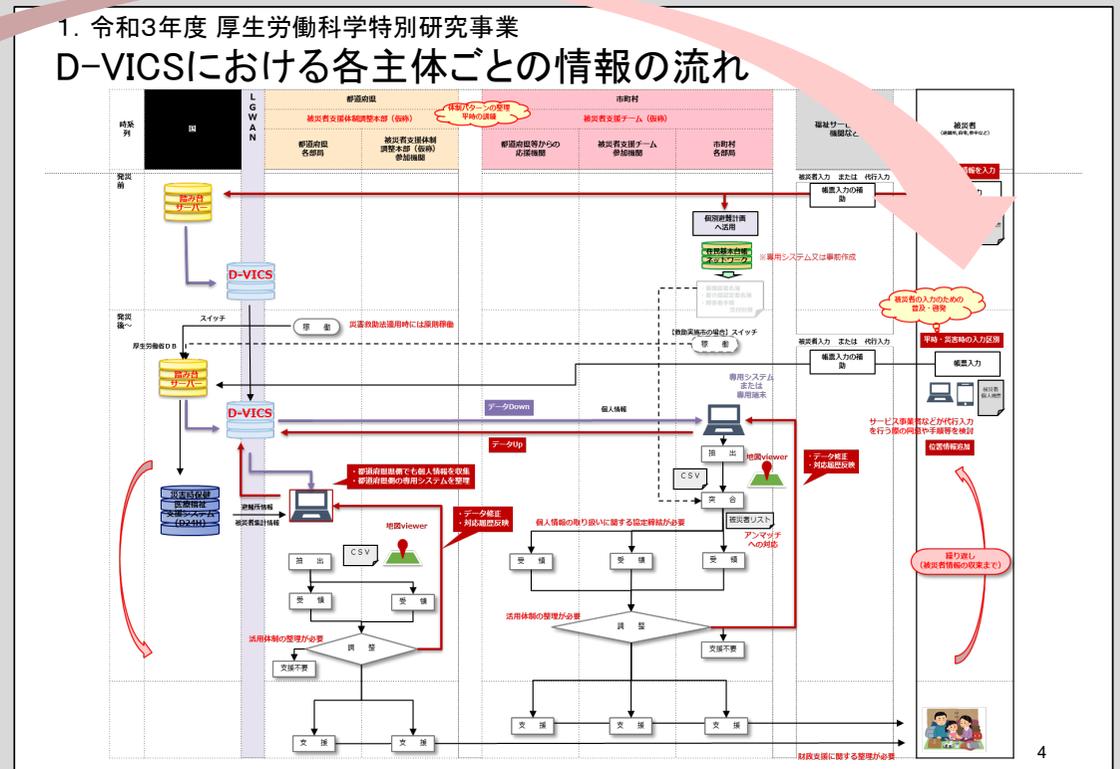
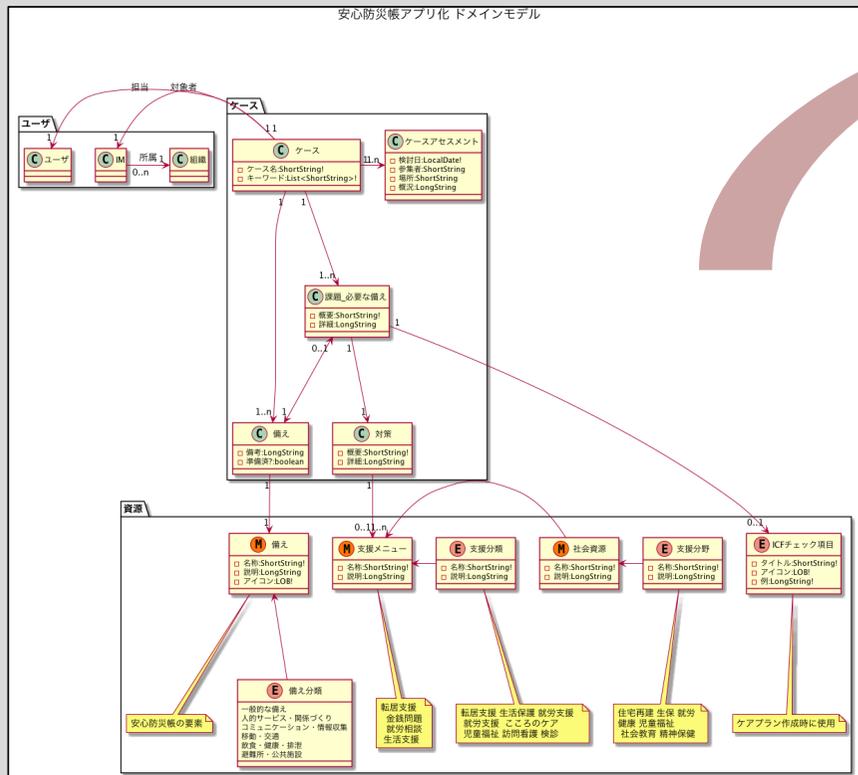
An App was developed that emulates Paper-based Bosai Security Notebook for the assessment of functional needs in times of evacuation and sheltering



Multi-Hazard & Impact Maps for My Neighborhood

Earthquake and flood impact maps for Beppu City, all 41 cities and towns in Hyogo Prefecture, and all 19 cities and towns in Shiga Prefecture.

The Application Programming Interface (API) Linkage to LGWAN-based D-VICS (Disaster Victim Information Communication System)



立木茂雄

R & D of i-BOSAI Disaster Care Planning Processes

別府市展開グループ
村野淳子* (別府市)

当事者による
平時及び災害時
のアウトリーチ
グループ
八幡隆司 (ゆめ風基金)
田村太郎 (ダイバーシティ研究所)

CAPACITY BUILDING

ツール開発ユニット

R & D of i-BOSAI Tools for Disaster Care Planning

あむたのまちの
直型地震ハザード化
ESRIジャパン

佐藤翔輔 (東北大学)
大村直也 (株式会社おかのて)
佐藤翔輔 (東北大学)

EMPOWERMENT TOOLS

事業定着化ユニット

コンピテンス分析
カリキュラム開発・評価・
プラットフォーム化
検討グループ

事業定着・制度化
検討グループ

Utilization and Institutionalization of i-BOSAI Disaster Care Planning

IM研修のしくみ化
明城敏也 (JVC)
吉川肇子 (慶応義大)
村野淳子* (別府市)
田村太郎 (ダイバーシティ研究所)
辻岡綾 (同志社大学)

ORGANIZATIONAL ARRANGEMENTS & INSTITUTIONALIZATION

結成

②行政職員向けIM研修プラットフォーム (仮)
①民間組織向けIM研修プラットフォーム (仮)
同志社大学i-BOSAI研究センターによる研修R&D支援

社協災害福祉支援センター
都道府県社協災害福祉支援センター
全国社会福祉協議会
3.1変える会